

■ 課題の整理（案）

本市は、米子駅周辺や角盤町周辺などのまちなかを中心に充実した都市機能を有し、比較的コンパクトな市街地を形成しています。しかし、人口減少や少子高齢化、まちなかの空洞化、市街地の災害リスクなど、今後大きな問題となる兆しも見えつつあります。本市の現状や市民アンケートの結果、本市が取り組んでいる既存のプロジェクトから整理した市の強みと弱みを踏まえて、課題を以下のとおりとりまとめました。

| 分類   | 米子市の現状   | 市民アンケート結果  | 主な既存のプロジェクト   | 本市の強み  | 強みを伸ばすための課題  | 本市の弱み   | 弱みを克服するための課題  |
|------|--|--|---|--|--|---|---|
| 人口等  | <ul style="list-style-type: none"> <li>将来の人口減少は比較的緩やかで、2045年の将来人口は2015年の約5%減少にとどまる想定となっています。</li> <li>少子高齢化は引き続き進行することが想定されています。</li> <li>2045年には、人口は米子市役所付近の中心市街地や市の縁辺部で大きく減少し、高齢化率も米子市役所周辺や郊外で60%を超えると予測されています。</li> </ul>                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>定住・住み替え意向として、市内に住み続けたい人は約78%で、市外に引っ越したい人の約3%を大きく上回っています。</li> <li>10～30歳代、40歳代では、他の年齢層に比べ、市内に住み続けたい人の割合が低く、市外に引っ越したい人の割合が高くなっています。</li> <li>今後必要な施策としては、10～30歳代では「子育て環境の充実」、70歳代では「高齢者福祉の充実」、40～60歳代では「持続可能で歩いて暮らせるまちづくりの実現に向けた取組」が多くなっています。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>【移住・定住】</li> <li>・移住定住推進事業(お試し住宅)(移住・定住希望者のお試し住宅の運営)</li> <li>・移住者からの相談窓口のワンストップ化ときめ細かな生活情報の提供</li> <li>・まちなかデベロッパー事業(遊休不動産の掘り起こし、情報発信等)</li> <li>【医療・福祉】</li> <li>・高齢者地域コミュニティ支援事業(有償ボランティアによる高齢者支援)</li> <li>・フレイル対策拠点事業(高齢者の健康維持活動の拠点づくり)</li> <li>・バリアフリー環境整備促進事業など</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>人口の将来推計では、今後、少子高齢化は進展するものの、人口減少の度合いは比較的緩やかであることが想定されています。また、アンケートでも市内に住み続けたい人が約78%と非常に高くなっています。</li> <li>高齢者の生活支援や健康づくりなど、高齢者が健全に生活できるための取組が行われています。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>●年をとっても健康・快適に生活できる環境の整備</li> <li>・本市に長く住み続けることができるよう、アクセスしやすい日常生活サービス施設の立地誘導や健康づくりのための施設の整備、交通弱者に配慮した移動手段の確保など、年をとっても健康・快適な生活を続けることができる環境の整備が必要です。</li> </ul>                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートによると、若い世代では住み続けたい人の割合が比較的低く、人口の将来推計でも少子化が進むことが予測されています。このまま若い世代の減少が続くと、産業や消費、地域コミュニティを担う人材の不足、空き地・空き家の増加など、地域活力の低下が懸念されます。</li> <li>若い世代では、子育て環境の充実を希望しています。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>●若い世代や子育て世代の居住誘導</li> <li>・子育てを支援する施設や働く場所の創出など、減少しつつある若い世代や子育て世代の居住を誘導する取組が必要です。</li> </ul> |
| 土地利用 | <ul style="list-style-type: none"> <li>人口の多い地区や人口集中地区は概ね市街化区域内におさまっています。</li> <li>市街化区域内を中心に、土地区画整理事業等の計画的な市街地整備が行われ、都市基盤が整備されています。</li> <li>新築や農地転用の多くは市街化区域内で行われていますが、一部、市街化区域外でも開発や農地転用が行われています。</li> <li>空き家率は全国平均や県平均を上回り、中心市街地には空き店舗や駐車場が点在しています。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>今後必要な施策としては、「持続可能で歩いて暮らせるまちづくりの実現に向けた取組」が最も多くなっています。</li> <li>今の場所に住み続けたい理由は、「住環境に満足」が約7割で最も多くなっています。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>【空き家対策】</li> <li>・空き家情報バンクの整備</li> <li>・まちなか空き家活用プロジェクト(若者向けシェアハウス「岩倉ふらっと」の整備・運営)</li> <li>・住んで楽しいまちづくりファンド事業(空き家・空き店舗等の利活用への投資)</li> <li>・角盤町商店街機能活性化事業(空き店舗改装の補助)</li> <li>・にぎわいのある商店街づくり事業(空き店舗の出店・活用等への補助)</li> <li>【中心市街地活性化】</li> <li>・まちなか振興ビジネス活性化支援事業(商店街の環境整備・出店等への補助)</li> <li>・よなごまちなかコミュニティ活性化支援事業(コミュニティ拠点施設や起業等への支援)</li> <li>・商店街にぎわい復活「市」開催支援事業(戸板市の広報費補助)</li> <li>・角盤町エリア活性化事業(新規出店、イベント支援)</li> <li>・駐車場管理運営事業(万能町及び米子駅前地下駐車場の管理運営)</li> <li>【土地利用】</li> <li>・市街化調整区域の規制緩和(交通利便性の高い地域等の開発基準の緩和)など</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>人口は、市街化区域内を中心にコンパクトに集積しています。</li> <li>アンケートでも現状の住環境に満足している人が多く、持続可能で歩いて暮らせるまちづくりを必要とする声が多くなっています。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●コンパクトにまとまった良質な市街地の維持・充実</li> <li>・持続可能で歩いて暮らせるまちづくりを進めるため、市街化区域や都市基盤の整備された市街地への居住誘導など、これまでのまちづくりで形成されてきた都市基盤や住宅ストック、公共交通網等を活かすことで、コンパクトで良質な市街地を維持するとともに、より魅力を高めるための取組が必要です。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>中心市街地を中心として、空き家や空き店舗を活用する取組が進められているものの、人口減少や郊外の宅地開発に伴い、空き家・空き地の増加が想定され、その結果、にぎわいや魅力の低下、防犯・防災上の危険度の増加等が懸念されます。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●増加が見込まれる空き家・低未利用地の利活用</li> <li>・空き家の再利用など、市街地内に増加しつつある空き家や低未利用地の活用を支援する取組が必要です。</li> </ul>  |

| 分類   | 米子市の現状   | 市民アンケート結果  | 主な既存のプロジェクト  | 本市の強み  | 強みを伸ばすための課題   | 本市の弱み  | 弱みを克服するための課題  |
|------|--|--|--|--|---|--|---|
| 産業   | <ul style="list-style-type: none"> <li>事業所数・従業者数は近年減少傾向となっています。</li> <li>大山、中海、日本海といった豊かな自然環境、米子城や妻木晩田遺跡などの歴史資源を有しています。</li> <li>平成24年から令和元年にかけて、米子・皆生温泉周辺、大山周辺の観光客数はいずれも減少しています。</li> <li>20代前半の人口は前後の年代と比べて少なくなっています。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>中心市街地の将来像について、10～50歳代では「働く場があるまち」が約3割と60歳代以上と比べて多くなっています。</li> </ul>  | <p>【産業振興】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>仕事の種（シーズ）づくりなど産学連携研究への支援</li> <li>情報通信及び事務管理関連企業立地促進補助（情報通信分野等の誘致企業への補助）</li> <li>創業された方応援します事業（市内創業者への応援金交付）</li> <li>地方創生に向けて“がんばる地域”応援事業（雇用の場創出等への支援）</li> <li>弓浜地域における農業基盤整備・荒廃農地対策の推進（荒廃農地の再生等）</li> <li>農商工連携・6次産業化の推進（販路開拓等への支援）</li> </ul> <p>【観光振興】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>米子の町家・町並み保存再生プロジェクト（町家・町並みの調査研究・保存再生）</li> <li>皆生温泉地区街なみ環境整備事業</li> <li>米子城・魅せる！プロジェクト事業（米子城に関する情報発信）</li> <li>コアな米子の魅力の発掘・発信（「大人達の社会見学」の充実支援）</li> <li>城下町米子観光ガイド（ボランティアによる観光ガイド）</li> <li>加茂川・中海遊覧の運航 など</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>観光客は減少傾向となっていますが、米子城や城下町、皆生温泉、妻木晩田遺跡などの<b>有力な観光資源が分布</b>しています。</li> <li>米子城や町並みの保存再生、加茂川・中海遊覧など、地域資源を活かした<b>観光客誘致に向けた取組</b>が行われています。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li><b>●魅力の掘り起こしによる観光産業の育成</b></li> <li>来訪者の増加のため、ボランティアガイドの育成や観光ルートの整備など、<b>多様な観光資源の魅力向上による観光産業の育成</b>が必要です。</li> </ul>             | <ul style="list-style-type: none"> <li>医療・バイオ産業や再生可能エネルギーなど、先端的な産業を担う企業が見られるものの、事業所や従業者数は減少傾向であり、このまま減少が続くと、<b>地域経済や地域社会に悪影響を及ぼす可能性</b>があります。</li> <li>アンケートでは、50歳代以下で<b>中心市街地に働く場を求める声</b>が多くなっています。</li> <li>20代前半で人口減少が起きていることから、<b>就職先となる事業所や進学先となる高等教育機関が不足</b>し、高校卒業後に市外へ流出していると考えられます。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li><b>●新しいライフスタイルに対応した働く場所・学びの場所の充実・創出</b></li> <li>就職時の市外への転出を抑制し、他都市からの移住を受け入れるため、医療・バイオ産業などの先端技術を活かした産官学連携などによる競争力の高い産業の育成など、<b>働く場所の増加</b>が必要です。</li> <li>まちなかの空き家や未利用スペースなどを活用したワーケーションやテレワークスペースの創出など、<b>新しい働き方に対応した環境整備</b>が必要です。</li> <li>専門学校や大学など、高校卒業後の学びの場所となる<b>高等教育機関の充実</b>が必要です。</li> </ul> |
| 都市機能 | <ul style="list-style-type: none"> <li>都市機能の人口カバー率は、各機能で市街化区域内の概ね90%以上と高く、市街化区域のほぼ全域をカバーしています。特に医療や介護は施設数や高度医療への対応など、質・量ともに充実しています。</li> <li>都市機能の集積度（施設数）は市街化区域内が高く、特に米子市役所付近の中心市街地に集中しています。</li> <li>平成6年と平成28年を比較すると、小売業は、商店数、従業者数、年間販売額といずれも減少しています。</li> <li>平成22年と令和元年の歳出決算額を比較すると、高齢化に伴い福祉に関する費用（民生費）が急激に増大しています。</li> <li>米子市の公共建築物の多くは昭和44年から昭和58年にかけて建設されており、今後は多くの建築物が更新時期を迎える見込みです。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>利用する施設の場所としては、多くの施設では「中央地区」が多くなっていますが、食料品店、医院・診療所、郵便局・銀行、地域活動や市民活動の場といった日常利用する施設については、居住する地区内の利用が多くなっています。</li> <li>中心市街地の将来像としては、「買い物に便利なまち」、「誰もが健やかで安心して暮らせるまち」が多くなっています。</li> <li>今の場所に住み続けたい理由は、「買い物をする施設が充実」、「高齢でも暮らしやすい環境が整っている」が多くなっています。</li> <li>引っ越したい理由としては、「日常の買い物をする施設が不足」が多くなっています。</li> <li>今後必要な施策としては、「空き家・空き店舗・空き地などの有効活用」が約3割となっています。</li> </ul> | <p>【公共施設整備・活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新体育館整備事業</li> <li>新生米子市立図書館の運営</li> <li>山陰歴史館整備事業</li> <li>公会堂利用促進事業</li> <li>西部総合事務所新棟・米子市糶町庁舎整備等事業 など</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>買い物や医療・介護など、<b>日常生活に必要な都市機能は、概ね市街化区域全体をカバー</b>しています。</li> <li>特に中心市街地は、市内や周辺都市から人が集まる買い物や医療、介護などの日常生活サービスの中心地であり、都市機能が豊富に集積しています。しかし、<b>近年では中心市街地に空き店舗や駐車場が増加</b>しつつあり、今後、中心市街地のにぎわいや活気が失われる可能性があります。</li> <li>アンケートによると、買い物に便利で、高齢者が暮らしやすい環境、健やかで安心して暮らせるまちなどが求められています。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li><b>●中心市街地のにぎわい・活力の確保</b></li> <li>市民の日常生活の機能を担う場所として、<b>中心市街地に集積する都市機能の維持や利用ニーズに合わせた更なる充実</b>により、にぎわいや活力を確保する必要があります。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>市の歳入額は横ばいで推移する一方で、<b>公共施設の維持更新費や高齢者の増加に伴う社会保障費は増加</b>することが想定され、財政の悪化や行政サービスの低下が懸念されます。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li><b>●公共施設等の多機能化・総量の適正化</b></li> <li>生涯教育や災害時の避難所など、公共施設に求められる機能は増加しています。人口減少や限られた財源のなかで、行政サービスを維持・強化するため、計画的な維持更新や統廃合、官民連携の施設経営など、<b>公共施設の多機能化や施設総量の適正化等</b>が必要です。</li> </ul>   |

| 分類    | 米子市の現状   | 市民アンケート結果  | 主な既存のプロジェクト  | 本市の強み  | 強みを伸ばすための課題  | 本市の弱み   | 弱みを克服するための課題   |
|-------|--|--|--|--|--|---|--|
| 道路・交通 | <ul style="list-style-type: none"> <li>JR 山陰本線と境線・伯備線の分岐点、山陰自動車道と米子自動車道の分岐点であるとともに、米子空港や隣接する境港を通して、東京・上海・香港などにもアクセスできるなど、山陰地方の交通の要衝となっています。</li> <li>公共交通の人口カバー率をみると、鉄道が約 30%、バスが約 70% で概ねカバーされていますが、郊外部では運行本数が一日に 10 本未満の地域が存在しています。</li> <li>鉄道の利用者は微増していますが、バスの利用者数は横ばいや減少傾向にあり、収支も悪化しています。</li> <li>市中西部は平坦な地形であり、弓ヶ浜や中海周遊などのサイクリングコースが整備されています。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>市内の施設までの主な移動手段は、施設の種類に関わらず「自家用車」が大半を占めています。</li> <li>人口減少・高齢化により予想される影響としては、公共交通サービスの低下が約 35% と比較的多くなっています。</li> </ul>  | <p>【公共交通】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>循環バス（だんだんバス）運行事業</li> <li>米子市交通バリアフリー基本構想</li> <li>米子駅南北自由通路等整備事業</li> </ul> <p>【徒歩・自転車】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>レンタサイクル事業</li> <li>米子駅北広場ウォークブル推進事業</li> <li>角盤町周辺地区歩いて楽しいまちづくり推進事業（ウォークブル推進事業）</li> <li>米子駅周辺地区歩いて楽しいまちづくり推進事業（ウォークブル推進事業）</li> <li>米子港周辺整備事業（歩行者の回遊ネットワークの整備等）</li> </ul> <p>【道路整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高規格幹線道路等の整備促進（米子境港間高規格幹線道路、中海架橋） など</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>市内には、JR 山陰線・伯備線・境線、米子自動車道・山陰自動車道、米子空港が位置し、港のある境港市とも隣接する<b>山陰地方の陸海空の交通の要衝</b>となっています。</li> <li>鉄道やバスは市街地を概ねカバーし、<b>比較的利便性の高い公共交通網</b>を有しています。</li> <li>ウォークブル推進事業やレンタサイクル、サイクリングコースの整備など、<b>徒歩や自転車でもちを回遊する仕組みが構築</b>されつつあります。</li> </ul> | <p>●多様な移動手段の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>交通の要衝としての立地や利便性の高い公共交通網を活かすため、自転車の利用促進、歩行空間の整備などにより、自家用車に過度に依存することなく、<b>多様な移動手段をスムーズに使用</b>できるようにしていく必要があります。</li> </ul>             | <ul style="list-style-type: none"> <li>現在、多くの市民が自家用車での移動を前提とした生活を営んでいますが、今後、高齢化により自家用車の運転が困難になる人が増加することや地球温暖化への意識が高まることにより、<b>公共交通のニーズが高まる</b>ことが想定されます。</li> <li>一方で、公共交通の利用者数をみると、鉄道は微増しているものの、自宅最寄りの交通手段である<b>バスの利用者は横ばい、または減少傾向</b>であり、収支も悪化しています。このまま、公共交通の利用者数が低迷すると、運行本数等の<b>サービス水準が低下する可能性</b>があります。</li> </ul> | <p>●持続的に運行可能な公共交通網の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>利便性の拡充などの鉄道・バス利用者の増加に向けた取組や利用ニーズに合わせたバス路線の再編など、<b>郊外と都市機能の集積したまちなかをつなぐ持続的に運行可能な公共交通網の構築</b>を進める必要があります。</li> </ul>                      |
| 災害リスク | <ul style="list-style-type: none"> <li>市の中部や JR 境線の北側等の広い範囲に洪水による浸水想定区域が分布しています。</li> <li>市の東部や南部に土砂災害警戒区域等の土砂災害リスクが分布しています。</li> <li>発生確率が高い南海トラフ巨大地震の最大震度は 5 弱と大きくありませんが、平成 12 年には鳥取県西部地震、平成 28 年には鳥取県中部地震により、液状化や斜面崩壊、家屋の全半壊などの被害が発生しています。</li> <li>米子市役所付近では、地震の際の液状化危険度が高くなっています。</li> <li>市の津波浸水想定区域は津波災害警戒区域（イエローゾーン）に指定され、基準水位が 5m 以上となる地域も存在しますが、浸水想定範囲は沿岸部に限定されません。</li> <li>避難所等のカバー圏域は、市街化区域のほぼ全域をカバーしています。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>重視すべき防災・減災対策（ハード対策）は、「河川浸水の対策」が最も多く、次いで「地震の対策」、「土砂災害の対策」が多くなっています。</li> <li>ソフト対策では、「行政機能の維持に向けた取組」や「危険情報の発信」、「防災に関する計画づくり」、「防災意識の啓発」が多くなっています。</li> <li>災害の可能性のある地域の方向性については、「現在の居住を維持」が約 4 割と最も多くなっています。</li> </ul> | <p>【防災・減災】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>震災に強いまちづくり促進事業（木造住宅の耐震診断、耐震化への補助）</li> <li>がけ地近接等危険住宅移転事業（危険住宅の撤去・移転等への補助）</li> </ul> <p>【上下水道】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>米子市公共下水道整備事業</li> <li>米子市公共下水道ストックマネジメント実施計画</li> <li>下水道広域化・共同化計画</li> <li>排水路新設改良事業 など</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>避難所・避難場所は市街化区域のほぼ全域をカバーしています。</li> <li>災害の可能性のある地域であっても、<b>今のまま住み続けたいとの意見</b>が多くなっています。</li> </ul>  | <p>●災害発生時の被害の最小化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>安全に住み続けることができるよう、新たな避難所・避難場所の整備や耐震性・耐水性の向上など、<b>安全な避難先の確保</b>が必要です。</li> <li>防災意識の向上及び地域の防災力の強化により、被害を最小限に食い止めることが必要です。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>近年、全国的に局地的大雨や集中豪雨が頻発化・激甚化しつつありますが、本市でも<b>市街地の広い範囲に浸水リスク、丘陵部の一部に土砂災害リスク</b>があり、災害の発生時には建物や生命に大きな被害が発生する可能性があります。</li> </ul>   | <p>●頻発化・激甚化する災害リスクへの対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本市では市街地の広い範囲に水害リスクが存在し、災害を完全に食い止めることは難しい状況です。万が一の災害発生時に被害を最小化できるよう、<b>ハード面だけでなく、市民の防災意識の向上などのソフト面も組み合わせた災害リスクへの対応</b>が必要です。</li> </ul> |

| 分類 | 米子市の現状  | 市民アンケート結果  | 主な既存のプロジェクト   | 本市の強み   | 強みを伸ばすための課題   | 本市の弱み  | 弱みを克服するための課題  |
|----|---|--|---|---|---|--|---|
| 郊外 | <ul style="list-style-type: none"> <li>市街化区域外は、市街化区域内と比べて、将来的な人口減少率が高いエリアが多くなっています。</li> <li>その一方で、市街化区域外でも、幹線道路沿線や中心市街地に近いエリアでは、新築や農地転用などの宅地開発が行われています。</li> <li>バスの運行本数が一日に10本未満、鉄道駅やバス停まで距離があるなど、公共交通の不便な地域が存在しています。</li> <li>市街化区域外は、大部分が農用地区域や保安林などに指定され、良好な農地や自然環境が保全されています。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>今後必要な施策としては、箕蚊屋地区では、「郊外での住宅開発のコントロール」、弓ヶ浜地区や南部地区では、「公共交通の活性化」が他の地区と比べ多くなっています。</li> </ul> | <p>【土地利用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市街化調整区域の規制緩和(交通利便性の高い地域等の開発基準の緩和) (再掲)</li> </ul> <p>【産業】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新たな工業用地の確保に向けた取組</li> <li>弓浜地域における農業基盤整備・荒廃農地対策の推進(荒廃農地の再生等)</li> </ul> <p>など</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>市街化区域外のうちでも、<b>幹線道路沿線や市街化区域に近いエリア</b>といった利便性の高いエリアでは一定の住宅需要がみられ、<b>適切にコントロールされた市街化が進みつつあります。</b></li> <li>米子インターチェンジ周辺に<b>新たな工業用地を確保</b>するなど、山陰地区の物流拠点化を促進する動きがあります。</li> <li><b>良好な田園や自然環境が存在</b>し、地域の魅力となっています。</li> </ul> | <p>●<b>まちなかと郊外の一体的な発展</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>利便性の高い<b>まちなか</b>と、田園風景・自然環境などの魅力があり、一定の住宅需要や工業用地の取得による企業誘致がみこまれる<b>郊外とが、一体的に発展できるよう適切な役割分担</b>が必要です。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>郊外では、<b>市街化区域内以上に大きな人口減少</b>が想定されています。</li> <li>人口減少が進むことで、利用者が減少し、<b>都市機能を担う施設の撤退やバス路線の維持が困難</b>になることが想定されます。</li> <li>アンケートでは、<b>公共交通の活性化が必要</b>とされています。</li> </ul> | <p>●<b>持続的に運行可能な公共交通網の構築(再掲)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>利便性の拡充などの鉄道・バス利用者の増加に向けた取組やオンデマンドバスなど新たな運行形態の導入など、<b>郊外と都市機能の集積したまちなかをつなぐ持続的に運行可能な公共交通網の構築</b>を進める必要があります。(再掲)</li> </ul> |